

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyomu/jidousya_k/file14/jika04_2.pdf

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/bus/s_2306.pdf

http://www.tb.mlit.go.jp/kvushu/gyoumu/ji_bu_ka/taxi/s_2306.pdf

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gvoumu/ij_by_ka/truck/s_2306.pdf

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/souko/2306.pdf

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2011-0708_senpakusangyou.pdf

http://www.tb.mlit.go.jp/kvushu/press/pdf/2011-0708_kokusai.pdf

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2011-0713_kantika.pdf

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/files/2011-0707_syougyouka.pdf

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/files/2011-0711-rvokaku.pdf>

～来たれ海へ 若い力を結集しよう～

現在、外航海運や内航海運では、約 31,000 人の日本人船員が働いています。外航海運は我が国の貿易量の 99% を輸送し、また、内航海運においても年間 1 億人の旅客と国内貨物の 34% が海上輸送されており、四面環海の我が国において、重要な交通・輸送手段となっています。一方、船員の労働環境面では、50

歳以上の内航船員が51%を占めるなど高齢化が進んでおり、若年船員をはじめとした船員の確保・育成を図ることが喫緊の課題となっています。

こうしたところから、九州運輸局では、ハローワーク業務と併せて、船員の確保・育成のため様々な支援事業を展開しており、本セミナーもその一つとして開催したものです。なお、同様なセミナーは、今年度、九州地区も含め全国7地区で開催が予定されています。

本セミナーでは、九州地区船員対策連絡協議会（※）の協賛のもと、①企業説明会や就職面談会②講習会である就職セミナー、③九州運輸局による海技資格・就職相談の3会場（コーナー）に分けて実施し、水産系高等学校生5校（29名）、海上技術学校生2校（66名）、大学生3校（8名）、離職者等（5名）の合計108名と海運事業者22社が参加しました。

企業説明会等では、参加者が企業毎に設置された「ブース」を積極的に訪問し、各社の担当者から会社の概要や船舶の就航状況などの説明を熱心に聞き入っていました。また、講習会では、元航海士の方が講師となり、実体験を基にした内航船の船内の様子や職場の実態などを分かり易く説明していただきました。

なお、当日は参加者アンケートを実施しましたが、その概要は次のとおりです。

- ・このセミナーは、若い方が多く、意欲的に感じました。（30代/船員経験なし）
- ・普段、学校では聞けない現場の内容を詳しく聞けて、とても有意義な時間を過ごせました。（10代/学生）
- ・船員を目指す人に対してとても勉強になりました。就職への第一歩が踏み出せました。（10代/学生）
- ・船員雇用を図るうえで、今後につながるセミナーでした。（参加企業）
- ・皆さんの熱心さに心を打たれました。（参加企業）
- ・定期的に開催して欲しいと思います。（参加企業）

九州運輸局では、今後も学生の就業体験（インターンシップ）事業の実施等、船員の確保・育成のための支援事業を積極的に実施していきます。

※九州地区船員対策連絡協議会

内航海運が抱えている船員労働力の不足問題に対応するため、九州地方海運組合連合会及び全国内航タンカー海運組合西部支部並びに九州運輸局により構成された協議会。

※当日の様子は、次のURLからご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_131_10.pdf

（海事振興部 船員労政課）

▼▼平成23年度夏季安全総点検を実施▼▼

九州運輸局では、夏季の多客期を控えた7月1日から10日までの間、旅客船、カーフェリー等の海上交通機関を対象とした「夏季安全総点検」を実施しました。

船舶による海難事故が発生した場合、沈没等により甚大な被害が生じる恐れがあり、また負傷者の救出にも時間を要することが予想されます。本総点検は、事故を未然に防止し、安全運航を確保するために、旅客船等の海上交通機関に対して、自主点検の実施を要請するとともに、当局職員による立入点検を実施するものです。

本年も、管内各港において、運航労務監理官、船舶検査官、船舶測度官が連携して点検班を編成し、延べ44社、51航路、57隻に対して立入点検を実施しました。

本局では本総点検の初日である7月1日に、福岡市が運営する博多～志賀島航路の「きんいん1」（120トン）に安藤九州運輸局次長を総指揮とする8名の点検班が乗船し、検査項目に基づき救命胴衣、救命筏取付状況等の確認また志賀島港ターミナルにおいて運送約款等の点検を行いました。

九州運輸局では今後も船舶の安全運航の確保を図るよう関係者への指導を行っていきます。

※当日の総点検の様様については、次のURLからご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_131_9.pdf

（海上安全環境部 運航労務監理官）

▼▼外国人旅行客の回復に向けて▼▼
～平成23年度九州クルーズ振興協議会総会開催～

平成23年6月28日（火）に「平成23年度九州クルーズ振興協議会総会」を九州運輸局において開催しました。

当協議会は、国内外のクルーズに関し、各地の情報を共有しながらクルーズ振興を図ることにより、九州全体の地域振興に寄与することを目的とし、国の関係機関、市町村等自治体、関係企業・協会・団体等により平成15年11月に発足し、7年あまりが経過しましたが、この間、会員の誘致活動等により、外航クルーズ客船をはじめ、九州各港へのクルーズ客船の入港は着実に増加しており、平成22年度は264隻の寄港がありました。

しかし、本年3月以降は東日本大震災や福島第一原発が被災したことによる風評被害等により、博多港の33隻をはじめ九州管内で約70隻の寄港中止が相次いでおります。

現在も依然として、日本全体が風評被害により敬遠されている状況ではありますが、そのような状況の中、6月3日に震災後初めてドイツから外航クルーズ客船「ブレーメン」が博多港に寄港しました。また、8月からクルーズ客船「レジェンド・オブ・ザ・シーズ」の博多港をはじめ別府、鹿児島港への寄港再開も予定されており、外国人旅行客の回復に向け明るい話題も出てきたところであり、より一層のクルーズ振興を図るため、平成23年度の協議会を開催しました。

